

奈良原 一高

NARAHARA IKKO



広報用画像 1
《「王国」より沈黙の園》1958年

2014.11.18

- 2015.3.1

東京国立近代美術館
ギャラリー 4 (2F)

戦後を代表する写真家のひとり、奈良原一高が1958年に発表したシリーズ「王国」。

北海道の修道院と、和歌山の女性刑務所という、極限状況を生きる人間をテーマにしたこの初期の代表作を、プリント全 87 点によって紹介します。

人間の限界状況を描いた奈良原一高の「王国」展は、おそらく本年度最高の写真展であろう。常に問題意識をたずさえて対象に喰い込んでゆくこの新人には、これからも大いに期待がかけられる。

— 『芸術新潮』1958年12月号
「ことし活躍した写真家」

Domains 王国

東京国立近代美術館

戦後新世代の台頭を印象づけた重要作、 全体像の紹介は東京では56年ぶり

奈良原一高（1931年生まれ）は、戦後に登場した世代を代表する写真家の一人として知られます。彼が1958（昭和33）年に発表した「王国」は、北海道の修道院と、和歌山の女性刑務所という、それぞれ外部と隔絶された空間に生きる人間存在を見つめた作品です。ほぼ無名の新人の個展としては例外的な反響を呼び、鮮やかなデビューとなった1956年の個展「人間の土地」に続いて、極限状況を生きる人間というテーマを深化させた本作は、日本写真批評家協会賞新人賞を受賞するなど、奈良原の評価を確立するものでした。

今回の展覧会は、2010（平成22）年度に株式会社ニコンより寄贈を受けたプリント全87点により、この初期の代表作「王国」を紹介するものです。

■「王国」について

「王国」は、1958年に個展（富士フォトサロン、東京および大阪）と雑誌グラビアページ（『中央公論』1958年9月号）において、女性刑務所に取材した「王国（その1）壁の中」と、修道院を舞台とする「王国（その2）沈黙の園」の二部構成で発表されました。

その後、1971年に中央公論社から「映像の現代1」として刊行された写真集『王国』（英題はMan and his Land）では、当初の第一部と第二部を入れ替え、さらに1956年発表の「人間の土地」シリーズより、長崎沖の炭鉱の島、通称“軍艦島”に取材したシリーズを第三部とする構成へと変更されます。そして1978年、朝日ソノラマからソノラマ写真選書第9巻として刊行された写真集『王国—沈黙の園・壁の中—』では、再び「沈黙の園」60点、「壁の中」30点、全90点からなる二部構成へと編み直されています。この1978年版では、Domains という英題が与えられました。

今回展示する、株式会社ニコンから寄贈を受けた87点は、1978年版写真集での構成をほぼ踏襲するものです。

□タイトル「王国」の由来

タイトルの「王国」は、アルベール・カミュの中篇小説集『追放と王国』（1957）にちなんでいるものです。奈良原は、同書におさめられた一篇「ヨナ」の結びにある以下の一節を、作品発表時に引用しています。

「その中央にヨナは実に細かい文字で、やっと判読出来る一語を書き残していた。が、その言葉は、Solitaire（孤独）と読んだらいいのか、Solidaire（連帯）と読んだらいいのか、分からなかった。」



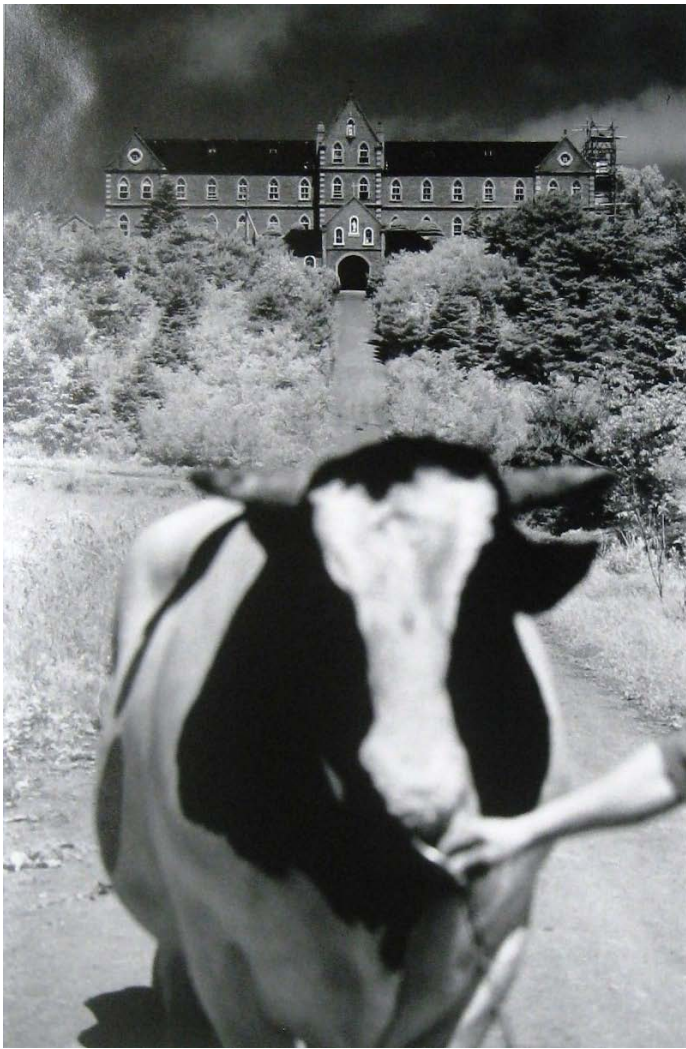
広報用画像2
《「王国」より沈黙の園》1958年



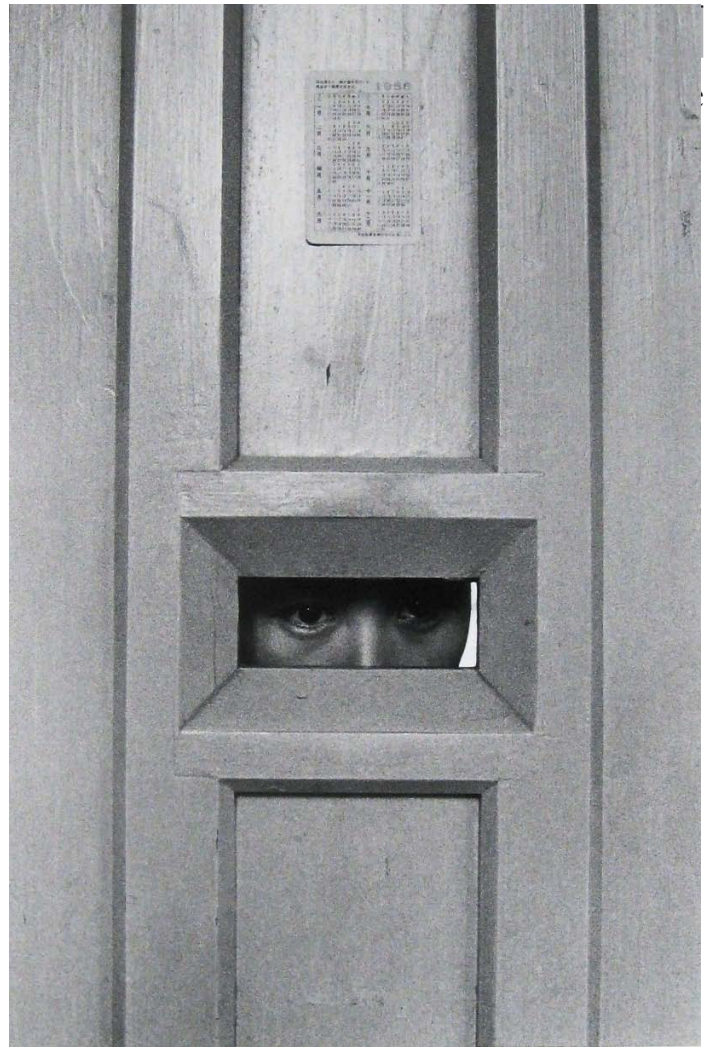
広報用画像3
《「王国」より壁の中》1956-58年



広報用画像4
《「王国」より沈黙の園》1958年



広報用画像 5
《「王国」より沈黙の園》1958年



広報用画像 6
《「王国」より壁の中》1956-58年

■高松次郎の個展を同時期に開催

東京国立近代美術館 企画展ギャラリーでは、12月2日[火]より、「高松次郎 ミステリーズ」展を開催。奈良原一高と高松次郎は同世代。この冬、戦後日本の新しい美術と写真をそれぞれけん引した作家をフューチャーします。



広報用画像 7
《「王国」より壁の中》1956-58年

■奈良原一高ならはら いろいろ (1931-)

福岡県に生まれる。中央大学法学部卒業後、早稲田大学大学院で美術史を専攻。在学中の1956年に開いた個展「人間の土地」(松島ギャラリー、東京)で注目される。58年個展「王国」(富士フォトサロン、東京・大阪)により日本写真批評家協会賞新人賞を受賞。59年、東松照明、細江英公らとセルフ・エージェンシーVIVOを結成(61年解散)。62年から65年まで滞欧。帰国後出版した写真集『ヨーロッパ・静止した時間』(鹿島研究所出版、1967)により日本写真批評家協会賞作家賞(1967)、芸術選奨文部大臣賞(1968)受賞。70年から74年まで滞米、帰国後滞米中の作品を写真集『消滅した時間』(朝日新聞社、1975)としてまとめる。86年、写真集『ヴェネツィアの夜』(岩波書店、1985)により日本写真協会賞年度賞。96年紫綬褒章受章。2005年日本写真協会賞功労賞受賞。

展覧会名：奈良原一高 王国 Narahara Ikko : Domains

会 期：2014年11月18日[火] - 2015年3月1日[日]

開館時間：10:00-17:00 (金曜日は 20:00 まで) * 入館は閉館 30 分前まで

休 館 日：月曜日 (11月24日、1月12日は開館)、11月25日[火]、
年未年始(12月28日[日]-2015年1月1日[木・祝])、1月13日[火]

会 場：東京国立近代美術館 ギャラリー 4 (2F)

主 催：東京国立近代美術館

協 力：奈良原一高アーカイブズ フォト・ギャラリー・インターナショナル

アクセス：東京メトロ東西線竹橋駅 1b 出口 徒歩 3 分 〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園 3-1

観 覧 料：一般：430 円 (220 円) / 大学生 130 円 (70 円) () 内は 20 名以上の団体料金。いずれも消費税込。

* 高校生以下および 18 歳未満、65 歳以上、キャンパスメンバーズ、MOMAT パスポートをお持ちの方、
障害者手帳等をご提示の方とその付添者 (1 名) は無料。

* 上記料金で入館当日に限り、同時開催の所蔵作品展「MOMAT コレクション」もご覧いただけます。

* 無料観覧日：12月7日[日]、2015年1月2日[金]、1月4日[日]、2月1日[日]、3月1日[日]

お問い合わせ：03-5777-8600 (ハローダイヤル)

H P：http://www.momat.go.jp/Honkan/naraharaikko/index.html [2014年10月UP予定]

記者内見会：2014年11月17日[月] 15:30-16:45 (16:00 より記者発表を行います)

同時開催：高松次郎ミステリーズ 2014年12月2日[火] - 2015年3月1日[日]

所蔵作品展「MOMAT コレクション」2014年11月11日[火] - 2015年3月1日[日]

イベント：[講演会] 日時未定

東京国立近代美術館講堂 (地下1階) にて。申込不要、参加無料 (先着 150 名)

* 詳細は追って HP に掲載いたします。

「奈良原一高 王国」展 報道関係窓口

東京国立近代美術館 企画課 (柴原・三輪)

e-mail: pr@momat.go.jp / tel 03-3214-2564 (企画課直通) / fax 03-3214-2576